心にしみた連帯と支え
三池乗り越えた闘いも
通用せぬ井戸の中の蛙
それでも三池の誇りが

を問題にすべきか

オルグが語り合う座談会

ここに出席された人びとは、COオルグ（ヨーカン販売を通じて、命を守る反合理化の闘いと、三池の火を広げるための活動）として、全国各地を目からハンドルをにぎりながら活動してくれたなかまです。さてこれらのなかまは、その活動の間果たして何を見、何を聞き、さらに何を学び、そして何を提言しているか。新しい年の闘いにそなえ、虚心に耳をかたむけましょう。

渋田　みなさんは三池の闘い、命を守るCO闘争の火を広げるために、全国各地でオルグ活動をやってこられたわけで、見聞なさったことが多かろうと思います。

私たちはややもすると、三池だけが闘っているんだと思い過ごし勝ちですが、いまはいろんな形で闘いが広がっています。きっと新しい年の闘いのために学ぶ点が多かろうと思いますが。

需要抑制下でつづく闘い

原田　私は大阪と三重をまわりましたが、どこにも総需要抑制の影響がでていました。赤字倒産や工場閉鎖など、口ぐちに先ゆき不振が語られていましたね。

西山　私は蒲池さんと、福島、茨城、栃木にはいりましたが、全体的にはやっぱり総需要抑制が表面化していました。

操業を短縮した企業では、賃金の一〇〇％～九〇％もらって休んでいる労働者がいましたが、操業短縮とどう闘うか、深刻に悩んでいました。

岡本　私は北海道にはいりました。石炭産業のきびしさを、まずしみじみ感じました。

閉山後の幌内にいきますと、新幌内炭鉱として生産はつづけられているものの、会社のおもわくに反して、八〇％ほどは幌内から移ってくる計画だったのが、実際にはわずか三十五人だったといっていました。あとは、炭鉱を逃げだしたわけです。

蒲池　そんなかで闘っているんですから。はじめてCOオルグに参加して、私はおどろくことばかりでした。

西山　その反面、まだ販売活動の域にとどまっているところがあって、こんなところでは「一本について幾ら利益があるのか」とかえってこちらからカンパ

蒲池　私は、そのことを痛感させられました。何しろ平市などでは、「炭労オルグ西山正勝氏来たる」と大書して流されていたありさまで、行けばどこでも相手はものすごく勉強している。こっちはよろよろ。「こらテ自分は★

渋田　わけですが、福島に着いたらいきなり集会のまっただなかにつれていかれて、向うから注文つけて「さあ話してくれ」でしょう。

とにかく、青年婦人連帯集会と反合理化とが結びつけられ、私たちを受けいれる日程がぎっしりと組まれていたんです。

そしていく先ざきの交流の場で具体的な問題について、ズバリズバリ切りこんでくるんですから。

西山　福島は、零細中小企業労働者の組織化が進んでいまして、クルマで十キロ走っていってさえ、ヨーカンをたった五本買ってもらうといったことさえありました。そんなところでも、「ヨーカンを反合理化闘争のあかしにするんだ」といってくれましたが。

渋田　はじめはカンパ活動のつもりだったヨーカン販売活動が、いまでは反合理化闘争を強め、三池の火を広げるテコになっているわけですね。

大石　福井県内に、労働者が全国金属の組織に加盟している工場が二つあります。たずねて行きましたら、組合幹部の人が「それじゃ」と、全組合員を食堂に集めて「三池の話を聞こう」、となったんです。

私は、一生懸命にうったえました。

三百人ほどの労働者でしたが、そのなかに三池出身だという人が四～五人もいられたんです。

西山　三池出身者の一人で茨城の松井さんがそれと同じで、直接自分が行動をともにして「三池と反合理化闘争」を結びつけてうったえていただきました。

大石　ときには、同盟傘下の組合幹部と交流したり……。

西山　全炭鉱組織下のある炭鉱で交流したら、「よし、話はわかった」、とカンパしていただきましたよ。

もういっぺん原点に帰って

渋田　では、私たちは今後どうするか。この点でお話を。

高崎　私がはじめてCOオルグにでかけたときは、多分に物見遊山的な気持だったのですが、二回めとなりますと、そんなあまい考えではダメだ、ということがよくわかりました。

かといって、みんなの前でどんどん話のできる者よりも、私のように話のできないものこそ、かわるがわるでかけて行くべきだ、と思いますよ。すると、自分たちが井戸のなかの蛙になっていることがよく見ゆるですから。

原田　ほんとにそうです。大阪の、全造船機械佐野安船渠分会なんか、暴力ガードマンの介入にも屈せず、資本の分裂攻撃と闘っているんですよ。

前からの顔なじみのところだし、とくに一人は、例のCO患者家族の会役員の、清水さんの妹婿さんの訪問真澄さんという人でした。ひと晩、そこのお宅へ泊めていただいて、七～八人の人と交流することができました。

ここにはまた、私と同じ職場の

連帯のありがたさじみじみ

高崎　私は群馬、長野、山梨の各県にはいりました。一般にいってまだまだだったですが、小さなすべり出しの組織ながらも、三池の火を広げるための活動の中心骨格に据えながら、新しい年への飛躍を期したい――、このことを確認し合って、今日の交流の幕を閉ずることといたします。どうも、ありがとうございました。

×

紙面の都合で大分割愛したことを、お許し願っておきます。

座談会出席者

原田久男　宮浦指導部
西山正勝　本所指導部
蒲池秋年　右同
岡本清助　宮浦指導部
大石昇　港務指導部
高崎勝太　四山指導部
宮本文男　本部役員
（以上発言順によりました）

司会　渋田紀生書記長

原田　歩かないとですね。

私は大阪の〝労災・職業病と闘う関西集会〟（百五十人ほど）にでて、三池の実状報告をやったんですが、さっそくカンパが集められ、三池にいただいて帰りました。

十一月十二日、大阪まなぶ友の会の人びとの手で開催されました〝一一・九三池大災害抗議集会〟にも参加して、同じく実態報告を行いましたが、ここでも連帯のカンパをいただいたわけです。

渋田　返って自分たちが、もう一度三池を見直すことを求められている感じですね。

大石　三百人ほどの労働者でしたが、そのなかに三池出身だという人が四～五人もいられたんです。

西山　全炭鉱組織下のある炭鉱で交流したら、「よし、話はわかった」、とカンパしていただきましたよ。

もういっぺん原点に帰って

渋田　では、私たちは今後どうするか。この点でお話を。

高崎　私がはじめてCOオルグにでかけたときは、多分に物見遊山的な気持だったのですが、二回めとなりますと、そんなあまい考えではダメだ、ということがよくわかりました。

かといって、みんなの前でどんどん話のできる者よりも、私のように話のできないものこそ、かわるがわるでかけて行くべきだ、と思いますよ。すると、自分たちが井戸のなかの蛙になっていることがよく見ゆるですから。

原田　ほんとにそうです。大阪の、全造船機械佐野安船渠分会なんか、暴力ガードマンの介入にも屈せず、資本の分裂攻撃と闘っているんですよ。

前からの顔なじみのところだし、とくに一人は、例のCO患者家族の会役員の、清水さんの妹婿さんの訪問真澄さんという人でした。ひと晩、そこのお宅へ泊めていただいて、七～八人の人と交流することができました。

ここにはまた、私と同じ職場の

渋田　みなさんは三池の闘い、命を守るCO闘争の火を広げるために、全国各地でオルグ活動をやってこられたわけで、見聞なさったことが多かろうと思います。

私たちはややもすると、三池だけが闘っているんだと思い過ごし勝ちですが、いまはいろんな形で闘いが広がっています。きっと新しい年の闘いのために学ぶ点が多かろうと思いますが。

需要抑制下でつづく闘い

原田　私は大阪と三重をまわりましたが、どこにも総需要抑制の影響がでていました。赤字倒産や工場閉鎖など、口ぐちに先ゆき不振が語られていましたね。

西山　私は蒲池さんと、福島、茨城、栃木にはいりましたが、全体的にはやっぱり総需要抑制が表面化していました。

操業を短縮した企業では、賃金の一〇〇％～九〇％もらって休んでいる労働者がいましたが、操業短縮とどう闘うか、深刻に悩んでいました。

岡本　私は北海道にはいりました。石炭産業のきびしさを、まずしみじみ感じました。

閉山後の幌内にいきますと、新幌内炭鉱として生産はつづけられているものの、会社のおもわくに反して、八〇％ほどは幌内から移ってくる計画だったのが、実際にはわずか三十五人だったといっていました。あとは、炭鉱を逃げだしたわけです。

蒲池　そんなかで闘っているんですから。はじめてCOオルグに参加して、私はおどろくことばかりでした。

西山　その反面、まだ販売活動の域にとどまっているところがあって、こんなところでは「一本について幾ら利益があるのか」とかえってこちらからカンパ

蒲池　私は、そのことを痛感させられました。何しろ平市などでは、「炭労オルグ西山正勝氏来たる」と大書して流されていたありさまで、行けばどこでも相手はものすごく勉強している。こっちはよろよろ。「こらテ自分は★

渋田　わけですが、福島に着いたらいきなり集会のまっただなかにつれていかれて、向うから注文つけて「さあ話してくれ」でしょう。

とにかく、青年婦人連帯集会と反合理化とが結びつけられ、私たちを受けいれる日程がぎっしりと組まれていたんです。

そしていく先ざきの交流の場で具体的な問題について、ズバリズバリ切りこんでくるんですから。

西山　福島は、零細中小企業労働者の組織化が進んでいまして、クルマで十キロ走っていってさえ、ヨーカンをたった五本買ってもらうといったことさえありました。そんなところでも、「ヨーカンを反合理化闘争のあかしにするんだ」といってくれましたが。

渋田　はじめはカンパ活動のつもりだったヨーカン販売活動が、いまでは反合理化闘争を強め、三池の火を広げるテコになっているわけですね。

大石　福井県内に、労働者が全国金属の組織に加盟している工場が二つあります。たずねて行きましたら、組合幹部の人が「それじゃ」と、全組合員を食堂に集めて「三池の話を聞こう」、となったんです。

私は、一生懸命にうったえました。

三百人ほどの労働者でしたが、そのなかに三池出身だという人が四～五人もいられたんです。

西山　三池出身者の一人で茨城の松井さんがそれと同じで、直接自分が行動をともにして「三池と反合理化闘争」を結びつけてうったえていただきました。

大石　ときには、同盟傘下の組合幹部と交流したり……。

西山　全炭鉱組織下のある炭鉱で交流したら、「よし、話はわかった」、とカンパしていただきましたよ。

もういっぺん原点に帰って

渋田　では、私たちは今後どうするか。この点でお話を。

高崎　私がはじめてCOオルグにでかけたときは、多分に物見遊山的な気持だったのですが、二回めとなりますと、そんなあまい考えではダメだ、ということがよくわかりました。

かといって、みんなの前でどんどん話のできる者よりも、私のように話のできないものこそ、かわるがわるでかけて行くべきだ、と思いますよ。すると、自分たちが井戸のなかの蛙になっていることがよく見ゆるですから。

原田　ほんとにそうです。大阪の、全造船機械佐野安船渠分会なんか、暴力ガードマンの介入にも屈せず、資本の分裂攻撃と闘っているんですよ。

前からの顔なじみのところだし、とくに一人は、例のCO患者家族の会役員の、清水さんの妹婿さんの訪問真澄さんという人でした。ひと晩、そこのお宅へ泊めていただいて、七～八人の人と交流することができました。

ここにはまた、私と同じ職場の

渋田　みなさんは三池の闘い、命を守るCO闘争の火を広げるために、全国各地でオルグ活動をやってこられたわけで、見聞なさったことが多かろうと思います。

私たちはややもすると、三池だけが闘っているんだと思い過ごし勝ちですが、いまはいろんな形で闘いが広がっています。きっと新しい年の闘いのために学ぶ点が多かろうと思いますが。

需要抑制下でつづく闘い

原田　私は大阪と三重をまわりましたが、どこにも総需要抑制の影響がでていました。赤字倒産や工場閉鎖など、口ぐちに先ゆき不振が語られていましたね。

西山　私は蒲池さんと、福島、茨城、栃木にはいりましたが、全体的にはやっぱり総需要抑制が表面化していました。

操業を短縮した企業では、賃金の一〇〇％～九〇％もらって休んでいる労働者がいましたが、操業短縮とどう闘うか、深刻に悩んでいました。

岡本　私は北海道にはいりました。石炭産業のきびしさを、まずしみじみ感じました。

閉山後の幌内にいきますと、新幌内炭鉱として生産はつづけられているものの、会社のおもわくに反して、八〇％ほどは幌内から移ってくる計画だったのが、実際にはわずか三十五人だったといっていました。あとは、炭鉱を逃げだしたわけです。

蒲池　そんなかで闘っているんですから。はじめてCOオルグに参加して、私はおどろくことばかりでした。

西山　その反面、まだ販売活動の域にとどまっているところがあって、こんなところでは「一本について幾ら利益があるのか」とかえってこちらからカンパ

蒲池　私は、そのことを痛感させられました。何しろ平市などでは、「炭労オルグ西山正勝氏来たる」と大書して流されていたありさまで、行けばどこでも相手はものすごく勉強している。こっちはよろよろ。「こらテ自分は★

渋田　わけですが、福島に着いたらいきなり集会のまっただなかにつれていかれて、向うから注文つけて「さあ話してくれ」でしょう。

とにかく、青年婦人連帯集会と反合理化とが結びつけられ、私たちを受けいれる日程がぎっしりと組まれていたんです。

そしていく先ざきの交流の場で具体的な問題について、ズバリズバリ切りこんでくるんですから。

西山　福島は、零細中小企業労働者の組織化が進んでいまして、クルマで十キロ走っていってさえ、ヨーカンをたった五本買ってもらうといったことさえありました。そんなところでも、「ヨーカンを反合理化闘争のあかしにするんだ」といってくれましたが。

渋田　はじめはカンパ活動のつもりだったヨーカン販売活動が、いまでは反合理化闘争を強め、三池の火を広げるテコになっているわけですね。

大石　福井県内に、労働者が全国金属の組織に加盟している工場が二つあります。たずねて行きましたら、組合幹部の人が「それじゃ」と、全組合員を食堂に集めて「三池の話を聞こう」、となったんです。

私は、一生懸命にうったえました。

三百人ほどの労働者でしたが、そのなかに三池出身だという人が四～五人もいられたんです。

西山　三池出身者の一人で茨城の松井さんがそれと同じで、直接自分が行動をともにして「三池と反合理化闘争」を結びつけてうったえていただきました。

大石　ときには、同盟傘下の組合幹部と交流したり……。

西山　全炭鉱組織下のある炭鉱で交流したら、「よし、話はわかった」、とカンパしていただきましたよ。

もういっぺん原点に帰って

渋田　では、私たちは今後どうするか。この点でお話を。

高崎　私がはじめてCOオルグにでかけたときは、多分に物見遊山的な気持だったのですが、二回めとなりますと、そんなあまい考えではダメだ、ということがよくわかりました。

かといって、みんなの前でどんどん話のできる者よりも、私のように話のできないものこそ、かわるがわるでかけて行くべきだ、と思いますよ。すると、自分たちが井戸のなかの蛙になっていることがよく見ゆるですから。

原田　ほんとにそうです。大阪の、全造船機械佐野安船渠分会なんか、暴力ガードマンの介入にも屈せず、資本の分裂攻撃と闘っているんですよ。

前からの顔なじみのところだし、とくに一人は、例のCO患者家族の会役員の、清水さんの妹婿さんの訪問真澄さんという人でした。ひと晩、そこのお宅へ泊めていただいて、七～八人の人と交流することができました。

ここにはまた、私と同じ職場の

たえるためにも、三池は〝労災法〟の改正などの問題について、もっと真剣に対処して行き、闘いの先頭に立つことですね。もちろん私たちは、現行労災法を現実に乗り越えて、幾らかでも成果を勝ちとった実績をもってはいますがね。

岡本　三池、三池といばってはおれんですよ。小さな組織がむしろ三池を乗り越えてがんばっているところを、この目で見てきました。ほんとに、井戸のなかの蛙ではダメですよ。

西山　出かける前の思案よりも、出ていってぶつかること。

原田　それと同時に、私たちがあっちこっちに出かけていっては、協力を要請することのできるのも、やはり十一年間も一貫してCO闘争を闘いつづけてきた、という誇りがあればこそのことですね。

宮本　COオルグになればそれぞれ一カ月以上も家庭を留守にするわけですし、本人にも家族にも大変犠牲が求められます。その労苦に耐えることによって、三池の火を全国に広げ、活動家が育って行き、さらに資金も蓄積できることになります。

も早や、井戸のなかの蛙ではいけないことも、この活題を通じてよくわかりましたし、これからはなるべく新しい人がどしどしでかけて行く――、そんな体制をぜがひでもつくりあげて行きたい、と思うしだいです。ほんとに、ありがとうございました。

渋田　みなさんの今日のお話をこれからの闘いに対する私たち全員の意志統一の中心骨格に据えながら、新しい年への飛躍を期したい――、このことを確認し合って、今日の交流の幕を閉ずることといたします。どうも、ありがとうございました。

×

紙面の都合で大分割愛したことを、お許し願っておきます。

座談会出席者

原田久男　宮浦指導部
西山正勝　本所指導部
蒲池秋年　右同
岡本清助　宮浦指導部
大石昇　港務指導部
高崎勝太　四山指導部
宮本文男　本部役員
（以上発言順によりました）

司会　渋田紀生書記長